

重トレーラーの積み荷のダンプ 高架橋に衝突

過失往来危険容疑など、運転手ら書類送検

2016年4月8日（金）9時55分

山形県の国道で昨年11月、**トレーラーで運んでいた積み荷のダンプがJRの高架橋に衝突**し、同線が終日、**運転を見合わせる**などした事故で、警察が**過失往来危険**や**道交法違反**などの疑いで、トレーラーの運転手の男性と会社、男性運転手の上司を**書類送検**したことが分かった。

法令で定めた大きさを超えるダンプを運んだことなどの違法性を認定し、立件したとみられる。

ダンプを載せたトレーラーを、JRの高架橋に衝突させ、**電車の往来に危険**を生じさせるなどした疑い。

事故の影響で、同線が終日運転を見合わせたほか、国道も約9時間15分にわたって通行止めとなった。

事故当時、高架橋下を通行する**高さ制限は4.3メートル**だった。

事故を受け、JRは高架橋手前にある**高さ制限のバーを4.1メートルに下げた**。

7日、取材に対し、建設会社の担当者は「**再発防止策を関係機関に提出した。これから実施に努める**」と話した。

事故を起こしたのは建設会社だが、同じく大型車両を扱う**運送業界にも同様の問題意識**はある。

県トラック協会は「**積み荷の状況や高さを把握することは発車前の基本的な確認事項だ**」と指摘する。

同協会によると、全国では、**橋桁や踏切の遮断棒に荷台がぶつかる事故**が起きており、全日本協会などから届く情報をホームページに掲載し、会員と**問題意識を共有**している。

県内では積雪期に踏切で立ち往生するケースが懸念される。同協会は「無理な通行をしないように講習などを通じて今後もドライバーに周知していく」としている。

高架橋のほか、**信号柱などの道路構造物**に衝突する事故で、通行が遮断されることもある。